

伊賀市議会 だより

No.77
2024.5.1

行ってみよう 聞いてみよう！



写真左から

博愛住民自治協議会

生涯学習支援員

市民センター事務員

市民センター事務員

副会長

会長

副会長

市民センター所長

ささの
笹野
たけもり
竹森
みやもと
宮本
あたらし
新
おく
奥
うえたに
上谷
まえかわ
前川

あゆみ さん
康美 さん
えみこ
恵美子 さん
よしお
喜夫 さん
しんじ
眞治 さん
ひでこ
秀子 さん
みきこ
美貴子 さん

関連記事は 20 ページ

特集

令和6年度一般会計予算 厳しくチェック！・・・ P4

＜主な掲載内容＞

中学生議会	・・・ P 2
市議会の新しい体制	・・・ P 3
2月定例会議	・・・ P 6
3月閉会会議	・・・ P 8
4月開会会議	・・・ P 9
市政を問う 一般質問	・・・ P11
活動報告	・・・ P17
インタビュー 人と地域がつながってイキイキ活動紹介	・・・ P20



こんなまちにしたい！ 私が思い描く伊賀市の未来

令和6年1月24日

市政及び議会への理解と関心を深め、社会参画への意欲を持つことを目的に、伊賀市立中学校10校から選ばれた21人の中学生議員が、議事進行、一般質問をしました。

質問・提案内容

- 崇広中学校 — 伊賀市の魅力発信・文化交流について
- 緑ヶ丘中学校 — 伊賀市のイベントについて私たちの思い
- 城東中学校 — 上野天神祭について
- 上野南中学校 — 空き家対策の現状と課題について
- 柘植中学校 — 誰にとっても移動に困らないまちづくり
- 霊峰中学校 — ユニバーサルデザインに配慮したまちづくりについて
- 島ヶ原中学校 — 少子高齢化にともなう人口減少の対策と地域活性化について
- 阿山中学校 — 無料の自習スペース設置について
- 大山田中学校 — 防災について
- 青山中学校 — エコツーリズムで伊賀市の魅力を伝えるために



感想

- 本当の市議会と同じ環境で緊張しましたが、市のさまざまな取り組みを知れて勉強になった。
- 伊賀市政に対する疑問を伝え、返答をもらうことで、伊賀市の魅力に改めて気づけた。
- 議会に参加するという貴重な体験ができた。
- これからまちづくりをしていく中で、自分たちが考えていくことは数えきれないほどあると思った。

中学生議員のみなさんの意見を聞かせていただき、伊賀市の未来をにやう若者の声を聞く場を今後もつくっていきます。



令和6年伊賀市議会 定例会が開会しました。

通年議会（令和6年4月15日～令和7年3月31日）

市議会の新しい体制

議長



にしぐち かずしげ
西口 和成

副議長



ももい ひろこ
桃井 弘子

議長・副議長 あいさつ

このたび、令和6年伊賀市議会定例会「4月開会会議」におきまして、議長・副議長に就任いたしました。

昨年5月、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行して1年が経過し、市民の皆様もかつての日常生活を取り戻しつつありますが、その反面、物価高騰、円安の影響などにより、市民生活や経済活動は厳しい状況です。地域経済への支援や家計への支援等に対応した未来に続く対策など状況の変化を捉えた支援が求められています。

このような中、市議会におきましては、昨年7月より会期を約1年間とする「通年議会」を導入し、いつでも会議を開くことができます。突発的な災害等への迅速な対応のほか審議時間の拡充により市政に対する監視機能・政策立案機能の強化に努めているところです。

そして、市議会議員選挙と市長選挙の同時選挙の実現や昨年度に引き続き中学生議会の開催など「市民による市民のための信頼される開かれた議会」を目指し、更なる議会改革に取り組んで参ります。市民の皆様の一層のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

監査委員

きたもり とおる
北森 徹

○…委員長 ○…副委員長

予算・決算常任委員会

予 算 予算及びこれに関する事項を所管

○桃井 弘子 ○宮崎 栄樹 委員は議長を除く21議員

決 算 決算及びこれに関する事項を所管

○桃井 弘子 ○宮崎 栄樹 委員は議長と監査委員を除く20議員

議会運営委員会

議会を円滑・能率的に行うため、日程や審議内容を審査

○市川 岳人 ○川上 善幸
北山太加視 森中 秀哲
上田 宗久 近森 正利
百上 真奈 中岡 久徳

その他組合等議会

伊賀南部環境衛生組合

青山地域と名張市のごみ処理、し尿処理施設の管理運営に関する事項を審議

森中 秀哲 宮崎 栄樹
桃井 弘子 中谷 一彦

三重県後期高齢者医療広域連合

三重県内の後期高齢者医療制度の運営に関する事項を審議

西口 和成

○…委員長 ○…副委員長

※議長は、常任委員会には所属しません。

常任委員会委員

総務常任委員会

総務部、企画振興部、財務部、地域連携部、人権生活環境部、デジタル自治推進局、防災危機対策局、出納室などの事項、その他の委員会に属さない事項を所管

○宮崎 栄樹 ○濱瀬 達雄 北山太加視 市川 岳人 田中 寛 中谷 一彦 百上 真奈

教育民生常任委員会

健康福祉部、上野総合市民病院、教育委員会の事項を所管

○増田 雄 ○釜井 敏行 西條エリ子 森中 秀哲 北森 徹 桃井 弘子 赤堀 久実

産業建設常任委員会

産業振興部、建設部、消防本部、上下水道部などの事項を所管

○山下 典子 ○福岡 正康 西田 方計 川上 善幸 上田 宗久 近森 正利 中岡 久徳

「充実した“旅”（未来）へ。“昇”（躍）

予算議案は、議長を除く全議員で構成する予算常任委員会に付託され、

令和6年度一般会計予算

こども

【主な事業】

使用済み紙おむつ持ち帰り廃止事業 1,971万2千円
使用済み紙おむつの持ち帰りを廃止し、各保育所等で処分し、子育て世帯の負担軽減を行う。

保育所等副食費無償化事業 8,795万6千円
保育所等で提供する副食の費用を無償化する。
(3～5歳)

子育て支援対策事業 604万8千円

要支援・要保護児童及びその保護者、妊婦等に対して家庭訪問を行い、家事・養育を援助する。

子どもの居場所づくり事業 560万円

子どもたちが安心して過ごせる環境で、将来の自立に向けて生き抜く力を育むことを目的に、子ども第三の居場所事業に取り組む運営団体に財政的支援等を行う。



くらし

【主な事業】

合併処理浄化槽設置及び管理事業 1億1,977万円
生活排水の排出による公共用水域の水質汚濁の防止を図るとともに、公衆衛生の向上及び生活環境の保全に資するため、合併処理浄化槽の設置に対する補助を行う。

空家等対策推進事業 4,413万4千円
空き家の流通を図るため、空き家バンクホームページ掲載物件の撮影・編集業務を行うことや、空き家相談窓口の充実を図るため、空家等管理活用支援法人による窓口を設置する。



にぎわい

【主な事業】

文化芸術推進費 2,546万7千円

美術博物館の建設に向け、基本計画の策定を行う。

忍者市プロジェクト事業 2億3,280万5千円

にぎわい忍者回廊PFI事業で建設予定の忍者体験施設の整備及び管理業務を行う。

芭蕉翁顕彰事業 4,355万円

令和6年の芭蕉翁生誕380年を記念した事業の検討・開催を実行委員会に委託する。



広報戦略マネジメント事業に係る予算審議の流れ

質疑（予算常任委員会 3月12日）

問 広報戦略マネジメント事業の内容は。

答 「誇れる伊賀市、選ばれる伊賀市」として、現在進めている施策や給食費の無償化など、近隣の自治体よりも先進的な事例で進めている事業を周知するため、新聞やSNS広告を使って発信します。

問 現時点での費用対効果は。

答 本来は子育て世帯の移住者数、観光客数、ふるさと応援寄付金額の結果等が指標になると考えますが、現時点で定量的な数字で費用対効果を出すことは難しいです。
SNS広告については、閲覧者の属性情報から今後の広報戦略も立てられるため、効果のひとつと考えています。

問 より多くの人の目に留まる情報発信の方法などを研究したうえでの予算付けか。

答 当該事業は業務委託するため、契約した業者から情報発信の方法を提案してもらうことになります。

問 新聞及びSNSでの広告について、庁内でどのような議論が行われたのか。

答 若い世代は新聞を見ない方が多いと考え、SNS広告を中心に発信しようということになりました。新聞広告については、政財界や企業などの経営者層をターゲットに、伊賀市の状況を知ってもらうため、ターゲット層が購読していると思われる日本経済新聞において子育て施策を中心に紙面広告を行うこととなりました。

進)予算」を議会が厳しくチェック!

3月12日、14日、15日の3日間にわたって審査を行いました。

464億6,674万円を可決

昨年度より13億6,384万円増

修正議案提出

全員賛成で

可決

発議第2号

令和6年度一般会計予算に計上された広報戦略マネジメント事業 3,254 万 3 千円を削除

【提案理由】

伊賀市広報戦略指針が完成に至っていない段階で、事業全体の戦略も明らかではなく、広報のターゲットとその効果にふさわしい媒体選択の説得力に欠ける状態で、一回の新聞広告に極度に傾斜した巨額の費用をかけ、その費用対効果を確認あるかたちで説明されないままの予算計上に疑問の声が数多く出された。「誇れる伊賀市、選ばれる伊賀市」を実現するため、最少の経費で最大の効果を上げることができるよう、どのようなターゲットを想定し、どのタイミングや順番でどのように媒体を組み合わせたら、より広い対象者により深い情報訴求を実現できるのか、また、伊賀市への意識を高め行動を促すことができるのかについて、議会と市民を納得させるだけの戦略が必要である。一過性の事業ではなく、まず、伊賀市広報戦略指針を完成し、それに準拠した庁内での十分な議論を経て戦略を策定するべきであり、そうした戦略に基づかない巨額の予算案を認めるわけにはいかない。

再議書提出

再議とは?…市長の拒否権により、議会に再考を求め、再度議決を行うことです。

【地方自治法第176条第1項（抜粋）】

議会における議決について異議があるときは、長は理由を示してこれを再議に付することができる。

今回は、予算案が減額修正されたため、市長は事業費の減額に異議があるとして再議を申し入れました。

【提案理由】

1. 広報戦略マネジメント事業の意義について
2. 広報のターゲットとその効果にふさわしい媒体の選択について
3. 広報のタイミングとその順番、媒体の組み合わせについて
4. 広報戦略マネジメント事業に係る予算削除の影響について

再議においても修正議案どおり決定されました。



2月定例会月議会における採決（3月22日）の様子は、市議会ホームページから伊賀市議会チャンネル（YouTube）でご覧いただけます。↑



**阿山交流促進施設の設置及び管理に関する条例等の廃止
財産の無償譲渡（旧阿山ふるさと資料館）
財産の減額貸付け**

賛成少数で
否 決

民間事業者による道の駅あやま及び周辺公共施設敷地におけるエリアマネジメント事業の実施に伴い、阿山交流促進施設、阿山ふるさとの森公園及びあやま文化センターの公の施設としての用途を廃止し、土地建物等を減額して貸し付けを行うものです。また、当該事業に関連し、旧阿山ふるさと資料館を無償譲渡しようとするものです。

質 疑（総務常任委員会 3月7日）

問 当該3施設に対する業務委託費が不要になり、さらに家賃収入が入ってくることになるので、市としては新たな財源が生まれると考えてよいのか。

答 およそ年間平均で3施設に3,500万円から4,000万円ほどの業務委託費がかかっていました。それがなくなり、賃料として2,091万円の収入が新たに生まれてくることになります。

問 今回は、そもそも無償貸付が前提になっている。その理由は何か。

答 建物は改修が必要なものであり、有償で貸付するとなると、市で設備改修を含む維持管理経費を負担し続けることになります。市が維持修繕費を負担しない代わりに、無償で貸す前提で考えました。ただ、道の駅は大規模な修繕なく営業できるので、市は家賃は取るが改修費用を出さないことを契約書で定めています。

討 論（総務常任委員会 3月7日）

反 対 市の財産をいち早く活用していくことは大事だが、余りにも低廉で貸付けことが市民の財産の有効活用になるのかという観点が不足しているため。

賛 成 プロポーザルの公募をもっと広く求めるべきだったと思うが、賛成する。

討 論（本会議 3月22日）

反 対 阿山ではここ3年、拠点施設の廃止や統合の話が矢継ぎ早にあり「喪失感」が漂っています。市民憲章にある自治の原則の「情報共有」が不十分のままで、本議案が認められれば、財政にはよくとも住民の自治に対する感覚や市民力という金銭には代えがたい人的資源のためにはマイナスであると判断するため反対します。

反 対 契約に際して、不動産鑑定額4億5千万円以上の建物を多額の修繕費が予想されるため賃料無償とする減額貸付けは市民の利益に反し、重要事項である財務内容審査を、JVもしていない相互関連会社を含めて審査を行い、市所有物件のサブリース契約で全収入を提案者にする事を、議会に説明されないことは、議会軽視も甚だしい。

反 対 阿山ふるさとの森公園周辺施設の民間活用においてサウンディング調査から公募プロポーザルのプロセスが不透明で地域や関係者への説明、協議が十分にされて市の方針が理解を得ているとは到底思えません。よって反対を表明します。

賛 成 道の駅周辺3施設に、年間約4,000万円を税金で投入してきました。関連3議案は、市有財産の有効利用の観点から民間に約2,100万円の家賃で貸し付け、上下約6,000万円の新たな財源が確保できます。否決すれば、公募型プロポーザル審査会の選考結果を否定することになります。阿山地域の賑わい継続のために、可決すべきものと考えます。

賛 成 当地域の産業利用は地元自治協を加えて検討され、議会説明、パブリックコメントを経て都市マスタープランに明記されている。異論があるなら述べる機会があった。否決すれば維持経費と事業賃料機会ロスで、毎年5,700万円の損失。「集客が期待でき、収益を地域還元できる」と評価された変化も起こらない。将来に負債を残さない選択をするべきだ。

伊賀市介護保険条例の一部改正

賛成多数で

可決

令和6年4月施行の介護保険法施行令の改正に伴い、令和6年度から介護保険の第1号保険料の所得段階を2段階追加するほか、基準所得金額を改めるなどの改正を行うものです。

質疑（教育民生常任委員会 3月11日）

問 介護給付費準備基金の基準はあるのか。

答 介護給付費準備基金の明確な国の基準はなく、各市町村が決定しています。

問 この改正で介護保険料が値上げとなる人の割合は。

答 保険料が値上げとなる人は約750人で、全体の2.6%です。

問 第2段階の人だけが49,323円から53,629円に値上げするのか。

答 伊賀市では低所得者軽減制度を適用するので、事実上39,146円から37,971円に値下げします。

討論（教育民生常任委員会 3月11日）

反対 大幅な値上げとならないように非常に努力してもらっているが、介護給付費準備基金をもっと活用するべきと考えるため。

討論（本会議 3月22日）

反対 介護給付費準備基金活用の検討が十分なされていない。

化学消防ポンプ自動車の買入れ

全員賛成で

可決

伊賀市・名張市の消防連携・協力の一環として、水槽容量などの異なる車両をそれぞれが保有し、一部では対応しきれない災害に対して適切な活動を行うため、化学消防ポンプ自動車を更新し、伊賀消防署に配備しようとするものです。

質疑（産業建設常任委員会 3月11日）

問 現在、伊賀市には化学消防ポンプ自動車はないということか。

答 令和3年に故障し修理不能で廃車となりました。現在、代替えとしてタンク車で対応しています。

問 購入にかかる財源は。

答 緊急防災・減災事業債です。

議員提出議案

発議第1号 伊賀市インターネットを介した人権侵害のない社会づくり条例の制定

全員賛成で

可決

インターネット上の様々な人権侵害から全ての市民を保護するとともに、インターネット上の誹謗中傷や差別等の人権侵害を防止するための施策を推進し、次世代に豊かな社会を継承するために、新たに条例を制定しようとするもの。

発委第1号 伊賀市補助金等適正化条例の一部改正

全員賛成で

可決

市長は、当初予算の審査のときには補助金等の内容等について詳細な資料を議会に提出するが、当初予算のみではなく補正予算を含む予算全体を対象とすることで、より議会の関与を強化し、監視機能を充実させ、補助金等の不適切な執行に対する抑止力を発揮させることを目的として改正を行うもの。

※発委…委員会が議会に提出した議案



県立あけぼの学園高等学校の存続を求めることについて

賛成少数で

不採択

この度、三重県伊賀地域高等学校活性化促進協議会において、令和8年度まで伊賀地域5校存続を維持することが示されたことなどから現時点で採択すべき理由はなく、不採択となりました。

【請願者】 あけぼの学園高校地域支援協議会 代表 亀井 安之
【紹介議員】 北森 徹、福岡 正康、宮崎 栄樹、山下 典子、赤堀 久実、百上 真奈

青山保健センター運動施設の資産を行政財産として保有してプールを含む運動施設の継続について（請願）

全員賛成で

採 択

施設を利用している障がい者をはじめ、住民に対して最低限の生活環境基準を担保することは自治体の責務であることなどから、採択されました。

【請願者】 青山保健センターのプールの継続を求める有志一同 共同代表 竹本 昇、甲斐 正芳
【紹介議員】 宮崎 栄樹、百上 真奈

伊賀市の認知症対策に加齢性難聴の施策を追加し、補聴器購入の公的補助制度の導入を求める請願書

賛成多数で

採 択

加齢性難聴に対する施策を進めることは認知症予防対策に有効と思われることなどから、採択されました。

【請願者】 全日本年金者組合伊賀・名張支部 渡部 有子
【紹介議員】 森中 秀哲、百上 真奈

令和5年度一般会計補正予算（第10号） 8億9,069万7千円の減

全員賛成で

可 決

決算見込みによる補正を中心に、国の令和5年度補正予算で措置された事業及び能登半島地震に係る職員派遣関連費用等を補正。

【国の補正予算措置に伴う主なもの】

○伊賀鉄道活性化促進事業	2,477万2千円
上野市駅トイレ電灯幹線工事委託料	
伊賀線トイレ改修工事費	
○伊賀鉄道維持管理経費	1億1,826万2千円
鉄道施設・車両設備修繕工事及び更新工事委託料	

【能登半島地震に係る職員派遣関連】

○被災地支援経費	2,104万5千円
特殊勤務手当、旅費など	

3月 閉会会議

3月29日
補正予算1件の議案を審議

令和6年度一般会計補正予算（第2号） 2,039万4千円の増

全員賛成で

可 決

公共施設最適化計画に基づき、縮小・民営化することとしている道の駅あやま及び周辺公共施設について、施設の貸付先等の決定に期間を要することから、それまでの間、施設の維持管理または運営を行うための経費について所要額を補正。

伊賀市ゼロカーボンシティ宣言

全員賛成で

可決

先人から受け継いだ伊賀の自然を、未来を担う次世代の子どもたちに引き継ぐために、今後さらに市民・事業者・行政が一体となって地域脱炭素の取組を進め、2050年までに伊賀市の二酸化炭素排出量を実質ゼロにするカーボンニュートラルの実現に向けて「伊賀市ゼロカーボンシティ」を宣言する。

審議した議案と各議員の賛否

1月緊急会議

○：賛成 欠：欠席 ー：近森議員は議長のため採決に入っていない

件名		賛成 反対	議決結果	北山太加規	釜井敏行	西條工リ子	西田方計	濱瀬達雄	増田雄	森中秀哲	川上善幸	北森徹	西口和成	福岡正康	宮崎栄樹	桃井弘子	山下典子	市川岳人	赤堀久実	田中覚	上田宗久	近森正利	中谷一彦	百上真奈	中岡久徳	
市長提出議案	令和5年度伊賀市一般会計補正予算(第9号)	20 : 0	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	欠

2月定例会会議

○：賛成 ×：反対 欠：欠席 除：除斥 ー：近森議員は議長のため採決に入っていない(再議を除く。)

件名		賛成 ： 反対	議決 結果	北山 太加 規	釜井 敏行	西條 工リ 子	西田 方計	濱瀬 達雄	増田 雄	森中 秀哲	川上 善幸	北森 徹	西口 和成	福岡 正康	宮崎 栄樹	桃井 弘子	山下 典子	市川 岳人	赤堀 久実	田中 覚	上田 宗久	近森 正利	中谷 一彦	百上 真奈	中岡 久徳	
請願	県立あけぼの学園高等学校の存続を求めること	10 ： 11	不採択	○	○	×	○	×	×	○	×	×	×	○	○	×	○	×	○	×	○	—	×	○	×	
	伊賀市の認知症対策に高齢性難聴の施策を追加し、補聴器購入の公的補助制度の導入を求める請願書	11 ： 10	採択	×	○	×	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○	×	×	○	○	—	×	○	×	
市長 提出議案	令和6年度伊賀市一般会計予算	19 ： 2	可決	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	×	○	
	【議員発議第2号】令和6年度伊賀市一般会計予算に対する修正	21 ： 0	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	○	○	
	【市長から再議】令和6年度伊賀市一般会計予算	22 ： 0	※	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	令和6年度伊賀市介護保険事業特別会計予算	19 ： 2	可決	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	×	○	
	令和6年度伊賀市後期高齢者医療特別会計予算	19 ： 2	可決	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	×	○	
	伊賀市行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部改正	19 ： 2	可決	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	×	○	
	伊賀市手数料条例の一部改正	18 ： 2	可決	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	○	—	○	×	○
	伊賀市保育所条例の一部改正	18 ： 3	可決	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	—	○	×	○
	伊賀市介護保険条例の一部改正	19 ： 2	可決	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	—	○	×	○
	阿山交流促進施設の設置及び管理に関する条例等の廃止	8 ： 13	否決	×	○	×	×	○	○	○	×	×	×	×	○	○	×	×	×	○	○	—	×	×	×	
	財産の無償譲渡（旧阿山ふるさと資料館）	8 ： 13	否決	×	○	×	×	○	○	○	×	×	×	×	○	○	×	×	×	○	○	—	×	×	×	
	財産の無償譲渡（大山田保育園）	17 ： 3	可決	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	除	○	○	○	—	○	×	○	
	財産の減額貸付け	8 ： 13	否決	×	○	×	×	○	○	○	×	×	×	×	○	○	×	×	×	○	○	—	×	×	×	

※修正された議案第2号の議決結果に対して再議が申し込まれたが、審議の結果、先の議決のとおり決定

審議した議案と各議員の賛否

2月定例会会議

全員賛成で可決（同意・採択を含む）した議案（※：宮崎議員は欠席のため採決に入っていません）

請願	● 青山保健センター運動施設の資産を行政財産として保有してプールを含む運動施設の継続について（請願）	
市長 提出議案	- 令和6年度伊賀市国民健康保険事業特別会計予算 - 令和6年度伊賀市駐車場事業特別会計予算 - 令和6年度伊賀市サービスエリア特別会計予算 - 令和6年度伊賀市病院事業会計予算 - 令和6年度伊賀市水道事業会計予算 - 令和6年度伊賀市下水道事業会計予算 - 令和6年度伊賀市島ヶ原財産区特別会計予算 - 令和6年度伊賀市大山田財産区特別会計予算 - 令和5年度伊賀市一般会計補正予算（第10号） - 令和5年度伊賀市国民健康保険事業特別会計補正予算（第4号） - 令和5年度伊賀市駐車場事業特別会計補正予算（第2号） - 令和5年度伊賀市介護保険事業特別会計補正予算（第2号） - 令和5年度伊賀市サービスエリア特別会計補正予算（第1号） - 令和5年度伊賀市後期高齢者医療特別会計補正予算（第3号） - 令和5年度伊賀市病院事業会計補正予算（第3号） - 令和5年度伊賀市水道事業会計補正予算（第4号） - 令和5年度伊賀市下水道事業会計補正予算（第3号） - 令和5年度伊賀市島ヶ原財産区特別会計補正予算（第1号） - 令和5年度伊賀市大山田財産区特別会計補正予算（第1号） - 伊賀市、名張市、笠置町及び南山城村ごみ処理広域化基本構想検討委員会設置条例の制定 - 伊賀市監査委員条例等の一部改正 - 伊賀市公の施設に係る指定管理者の指定手続等に関する条例の一部改正 - 伊賀市指定管理者選定委員会条例の一部改正 - 伊賀市職員定数条例の一部改正 - 伊賀市職員の育児休業等に関する条例等の一部改正 - 伊賀市印鑑条例の一部改正※ - 伊賀市職員の特種勤務手当に関する条例の一部改正 - 伊賀市の適正な土地利用に関する条例の一部改正 - 伊賀市建築基準法等関係手数料条例の一部改正 - 伊賀市営住宅管理条例の一部改正 - 伊賀市空家等の適正管理に関する条例の一部改正 - 伊賀市水道事業給水条例及び伊賀市水道事業布設工事監督者の配置基準及び資格基準並びに水道技術管理者の資格基準に関する条例の一部改正 - 伊賀市住宅団地等調整池管理基金の設置、管理及び処分に関する条例の廃止 - 工事請負契約の締結※ - 財産の無償譲渡（三軒家消防ポンプ庫・沖消防ポンプ庫・桂消防ポンプ庫） - 三重地方税管理回収機構規約の変更に関する協議 - 伊賀市、名張市、笠置町及び南山城村ごみ処理広域化検討協議会の設置に関する協議 - 伊賀市、名張市、笠置町及び南山城村ごみ処理広域化基本構想検討委員会の共同設置に関する協議 - 市道路線の認定 - 辺地に係る総合整備計画の策定 - 教育長の任命（谷口 修一氏）※ - 農業委員会委員の任命（松永 省二氏）※ - 伊賀市指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例等の一部改正 - 化学消防ポンプ自動車の買入れ - 救急自動車の買入れ - 令和6年度伊賀市一般会計補正予算（第1号） - 令和5年度伊賀市一般会計補正予算（第11号） - 人権擁護委員候補者の推薦（今井 和子氏、松村 美喜子氏）	
議員 提出議案	- 伊賀市インターネットを介した人権侵害のない社会づくり条例の制定 - 伊賀市補助金等適正化条例の一部改正	

3月閉会会議

○：賛成 欠：欠席 ー：近森議員は議長のため採決に入っていません

件名	賛成：反対	議決結果	北山太加規	釜井敏行	西條工リ子	西田方計	濱瀬達雄	増田雄	森中秀哲	川上善幸	北森和成	西口正康	福岡栄樹	宮崎弘子	桃井典子	山下岳人	市川久美	赤堀久	田中覚	上田宗久	近森正利	中谷一彦	百上真奈	中岡久徳
市長 提出議案 令和6年度伊賀市一般会計補正予算（第2号）	19：0	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	欠	○	○	ー	○	○	○

4月開会会議

○：賛成 除：除斥 ー：西口議員、近森議員は議長のため採決に入っていません

件名	賛成：反対	議決結果	北山太加規	釜井敏行	西條工リ子	西田方計	濱瀬達雄	増田雄	森中秀哲	川上善幸	北森和成	西口正康	福岡栄樹	宮崎弘子	桃井典子	山下岳人	市川久美	赤堀久	田中覚	上田宗久	近森正利	中谷一彦	百上真奈	中岡久徳
市長 提出議案	指定管理者の指定	21：0	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ー	○	○	○
	伊賀市ゼロカーボンシティ宣言	21：0	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ー	○	○	○
	専決処分の承認（伊賀市市税条例の一部を改正する条例）	21：0	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ー	○	○	○
	専決処分の承認（伊賀市国民健康保険税条例の一部を改正する条例）	21：0	承認	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ー	○	○	○
	監査委員の選任	20：0	同意	○	○	○	○	○	○	○	除	ー	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
議員 提出議案	伊賀市議会委員会条例の一部改正	21：0	可決	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	ー	○	○	○

市政を問う

一般質問

一般質問は、3月4日、5日、6日の3日間で、18人の議員が市政に対して質問をしました。その主なものを掲載しています。

QRコードからは、各議員の一般質問の動画（YouTube）をご覧ください。

にしぐち かずしげ 西口 和成 議員

質問項目

- 伊賀市の人口減少問題解決にむけて
- 岡本市政の人事方針
- 投票所



問 伊賀市の人口減少問題解決にむけて具体的な施策は

岡本市政が誕生して12年。95,243人（2012年）から85,954人（2024年1月）と9,289人が減少しました。特に、伊賀市の子育て施策は、兵庫県明石市や千葉県流山市と遜色がないにもかかわらず、全国的に知られていません。

答 足りないのは広報活動です（市長）

伊賀市が全国でも有数の子育て施策を展開しているにもかかわらず、ほとんど知られていません。今年は、キャンペーンや広報活動を行うことを重点施策に位置付けています。

問 投票率向上のため、ハイトピア伊賀に期日前投票所を設置しませんか

本年11月、市長選と市議選の同時選挙の公算が高く、以前からも設置が望まれています。

答 現時点では考えていません

常設型の期日前投票所を追加で設置することは、財政的にも人的にも負担がかかります。

上野旧町部を含む投票区の期日前投票率は、直近の選挙を比較しても増減がありません。

問 第3期中心市街地活性化基本計画の方向性は

計画にある子育て世代の街中での人口増や、観光客を増やす事のどちらに重きを置いているのですか。

答 伊賀市の魅力を感じてほしい

観光振興なのか、市民向け施策なのかは、基本的にはどちらもしっかりと取り組んでいくのが伊賀市の特徴であり強みです。

2025大阪・関西万博に向けて、関西圏に重点をおいた施策をしていき、海外や国内の観光客に伊賀市の魅力を発信していきます。

問 論点は成人年齢ではないです。二十歳でのお祝いを

先般、中学生議会を開催して、二十歳に皆と一緒に祝いしたいと一般質問されていましたが、行政の対応は成人年齢の話になり可哀想でした。昨年の18歳成人式での不満はなかったのでしょうか。

答 18歳の成人式を意義あるものにしていきたいです

アンケートに不満の声もありましたが、多くの方から回答がなく、今後は、実行委員が企画して楽しく参加してもらえるように考えます。

きたもり とおる 北森 徹 議員

質問項目

- 市民の声が市政に反映するの
- 第3期伊賀市中心市街地活性化基本計画中間案



ももがみ まな 百上 真奈 議員

質問項目

- すべての子どもたちの育ちの支援
- 保育士配置基準の引き上げ
- 命を守る住宅耐震化の促進



問 子ども医療費助成を18歳年度末まで拡大を

子どもの医療費助成は、自治体の69.9%が18歳年度末までとなっています。伊賀市も18歳年度末まで拡げてください。

答 考えていません

問 市特例の保育士配置基準を全保育園の基準に

伊賀市には、1歳児が子どもの4人に1人、2歳児が子どもの5人に1人という国の基準を上回る特例の保育士配置基準があります。安全な保育と保育士の負担軽減につながる特例基準をすべての保育園の基準にしてください。

答 国基準の配置を基本とし、支援が必要な児童の状況に応じ、各園平等に保育士の加配を行います

問 耐震シェルター耐震ベッドの助成制度復活と設置促進を

家屋の倒壊から命を守るため、福祉部局と連携し高齢者世帯や在宅介護世帯などに啓発と設置を促してください。

答 助成制度創設を県に求めます

市民の耐震への関心も高いことから助成制度創設に向け、県と協議をしまいにいます。福祉部局と連携し要支援者へ啓発をしまいにいます。

一般質問

か ま い と し ゆ き
釜井 敏行 議員

質問項目

- 公共施設最適化計画のこれまでの取組みと、今後のあり方
- 伊賀市部落差別解消推進計画中間案



問 「一人あたり10万円」を強調するのは不適當では

市長は、青山保健センターのプールには一人あたり10万円の経費がかかることを強調していますが、コロナ禍の影響を受けて利用者が過去最少となった年の利用者数を基準にしたものであり、多くの障がい者や高齢者が心身の健康維持のために利用していることを踏まえれば、そうした文言を強調するのは不適當ではありませんか。

答 エビデンスです

一人10万円というのはエビデンス(根拠)なので、きちんと認識をしてください。

問 隣保館の相談力の評価は

部落差別解消推進計画中間案には隣保館が地域から信頼されていない、相談を受ける能力が低いと読み取れるような記述がありますが、市としてそのような認識ですか。部落差別に関する相談件数が少ないのは、差別事象が減っているからではありませんか。

答 回答を控えます

同和施策審議会での議論を踏まえ市の計画を発表するので、この場での回答は控えます。

問 防火水槽の修理等は市が行うべきでは

消防法には「消防に必要な水利施設は当該市町村がこれを設置し維持し及び管理するものとする」とあります。不要となった防火水槽は市が責任を持つべきでは。

答 防火水槽の修理については、市費又は消防施設関係補助金交付要綱に基づき原材料費を支給しています

廃止については市との契約がある場合を除き地区で負担いただいております。今後は防火水槽の修理、廃止ともに県下の状況を踏まえ検討してまいります。

問 水道管の耐震適合率、水道施設の耐震化率は

地震による断水には配水施設の損傷のほか水道管の破損等、様々な原因が考えられます。水道管の震度6強程度の大規模地震に耐えられる割合を示す「耐震適合率」等は何%ですか。

答 水道管の耐震適合率は34.9%です

17ヶ所ある浄水場の耐震化率は69.2%、65ヶ所ある配水池の耐震化率は88.7%、水道管路総延長1,372kmのうち130km耐震整備が完了し、耐震化率は9.5%です。

や ま し た の り こ
山下 典子 議員

質問項目

- 消防水利
- 断水対策
- 防災訓練
- 会計年度任用職員の処遇改善
- AED(自動体外式除細動器)



も り な か ひ で あ き
森中 秀哲 議員

質問項目

- 能登半島地震を踏まえた「市民・地域と共に取り組む震災対策」



問 住宅耐震化を進めましょう

市の耐震化補助制度は。

答 無料耐震診断等の制度をご利用ください

昭和56年5月以前築の木造住宅を対象に無料耐震診断、耐震改修設計費・工事費補助制度(条件あり)があります。

問 市民はどんな備蓄が必要ですか

市にはどんな備蓄があり、市民にはどんな備えを求めますか。

答 各家庭で必要物資7日分の備蓄を

南海トラフ地震(理論上最大級)1日目想定避難者数5,900人を基準に、食料・衛生用品・毛布・飲料水等2日分を備蓄して

います。3日目以降、国・県から支援が届きますが、道路不通も考え、各家庭で最低3日、できれば7日分の物資を備蓄してください。必要な薬や高齢者・乳幼児食品等もお願いします。

問 「地域力」をどう高めますか

防災に対する「地域力」を高める協力体制を、どう作りますか。

答 関係部局が連携して支援します

自分と周囲の命を守る市民の覚悟が大切です。防災・福祉・地域連携等関係部局が連携し、地域を支援します。

一般質問

いちかわ がくと
市川 岳人 議員

質問項目

- 新任期を迎える教育長の方針
- 未来へ躍進する施政及び予算編成方針に触れて



問 企業誘致奨励制度を見直していくべきではないですか

企業誘致の奨励制度は、長らく見直しが行われておらず、制度の有効活用が十分に行われていません。

熊本県の先端半導体のような成長産業分野の誘致を視野に入れて見直しを行い、戦略的に企業誘致を行うべきではないですか。

答 可及的速やかに見直しを進めます

伊賀市工場誘致条例に基づく奨励制度は、平成16年に施行したものであり、現在より時代に即した制度への見直しを検討しています。

見直しにあたっては、競合相手となる周辺自治体の制度との比較や全国の企業を対象とした意向調査等により、ニーズを把握するとともに、成長産業分野を含め対象業種の拡大や用地助成金の適用範囲の拡大など伊賀市独自の強みを活かした制度にする必要があると考えています。

伊賀市への企業誘致に繋がるより良いインセンティブとなるよう庁内関係部署と連携し、可及的速やかに見直しを進めます。

問 産業廃棄物処理場について

今回、伊賀市阿波地域に計画されている産業廃棄物処理施設は、事業者が現計画24,900㎡の何十倍もの土地を所有しているにもかかわらず、計画面積を25,000㎡以下に抑えて、環境影響評価を簡便な手法で済ましています。また、処理場のタイプが安定型であり、底にシートを引かず済むため、処理場から排出される水がどんな水かわかりません。

伊賀市の水道水源保護条例では、審査会の条項があり、市長が委嘱するとあります。伊賀市としてこの問題に対してどのように取り組み、三重県に対してどのように考えを述べていきますか。

答 この計画には、絶対反対していきたい

伊賀市の権限では阻止できないが、水道水源地域でもあり、保全するのが当然です。

あらゆる手段を通じて進められないようにするとともに、三重県知事には機会あるごとに反対を申し述べていきたいです。

ふくおか せいこう
福岡 正康 議員

質問項目

- 産業廃棄物処理場の計画
- 農業及び中山間地域の振興
- 高齢者福祉



はませ たつお
濱瀬 達雄 議員

質問項目

- 忍者市



問 広報をがんばっても街中に中身がないのではないですか

忍者の聖地伊賀市は忍者市として、国内外に忍者をアピールしていますが、市街地には観光ゾーンとして、飲食店等が集積している忍者横丁的なゾーンや、忍者のイメージを連想させる仕掛けをまったく整備していません。そのため忍者観光とのイメージで来られた方から、かなり不満の声が上がっています。早急に整備を行うべきです。

答 行っています

2024年度中に忍者体験施設も完成しますし、以前から忍者フェスタや市街地での忍者関連イベントを行っています。

問 ※SPCを設立して観光ゾーンをさらに推進しては

にぎわい忍者回廊整備事業のようなSPCを新たに作り、市街地に忍者にちなんだ町屋店舗街を作るべきではないですか。

答 今後も※DMOや市民の方と協働で、インバウンド客も取り込めるよう、さらなる賑わいを作っていきます

※SPC：特別目的会社

※DMO：観光地域づくり法人

一般質問

も も い ひ ろ こ
桃井 弘子 議員

質問項目

- 伊賀鉄道活性化
- 大山田地域複合施設
- 防災



問 通学定期券を購入する際、半額助成分を値引きした金額で販売するべきでは

答 割引を行うことの様々な影響を伊賀鉄道と調査・研究し、考えていきたいです

問 駅舎利活用の進捗状況は

答 まずは西大手駅から取り組みます

問 大山田地域複合施設の進捗状況は

令和4年12月議会で点在している7施設を集約し、複合施設を設置すべきと質問しました。

答 より効果的・効率的な構想の策定を進めていきたいです

昨年11月にプロジェクトチームを設置しました。民間の借地が含まれていることや、ハザードマップでの浸水地域も含まれていることも考慮しながら整備場所を選定していきます。

問 幼少期からの防災に対する自助の教育は重要では

保育所（園）また小中学校での更なる自助の教育をし、様々な場所・状況での防災訓練をするべきではないですか。

答 一番大事なことだと思います（市長）

自助は自立になり、自覚をもって生きていくことにも繋がると思います。

問 民俗文化財の防災マニュアル作りを

上野天神祭のダンジリ行事に関わる消防訓練が、1月に初めて実施されました。

民俗文化財を火災から守るマニュアル作りが必要ではないですか。

答 防災マニュアルを作成します

昨年7月に文化庁の認定を受けた伊賀市文化財保存活用地域計画にも、防災について記載があります。消防と協議、地域と協力しながらマニュアルを作成します。

問 観光案内標識の整備に二次元コードの活用を

答 まちなか回遊に結びつける工夫を施したサインを設置します

二次元コード等により、外国人・日本人問わず、観光客が新しい情報や、市内で過ごしやすい情報を得られる仕組みを検討します。

問 スケールメリットを考えた保育所（園）の統合を

答 持続可能な保育所運営を見据えて、規模・エリアの設定が必要です

小学校区を基本に統廃合や再編を進めていくとしています。持続可能な保育所運営を見据えたうえで、その規模やエリアの設定が必要と考えています。

ま す た た け し
増田 雄 議員

質問項目

- 次世代へ繋ぐ施策



あ か ほ り く み
赤堀 久美 議員

質問項目

- オーバードーズ（医薬品の過剰摂取）
- マイナンバーカードの取組み
- 公共施設のトイレ



問 孤立・孤独に対する支援を

近年、処方箋がなくても購入できる市販薬などの濫用や依存が社会的問題となっています。

国の調査において、全国の精神科医療施設で薬物依存症の治療を受けた10代の患者のうち、市販薬の濫用は2014年での0%に対し2020年では56.4%を占める結果となりました。

オーバードーズに陥る背景には、様々な悩みを抱え、周りに助けを求められない方が多いようです。

市の支援策を教えてください。

答 分野を問わない相談支援に対応する重層的支援体制整備事業に取り組んでいます

相談は、地域包括支援センターや4月新設予定のこども家庭支援課と、くらしサポートセンターおあいこが連携し、アウトリーチを含め積極的に対応します。

居場所は、ひきこもりサポート事業 *nest* や9月開設予定の子ども第三の居場所の活用や参加支援・地域づくり支援などにより、世代間交流も含め、孤立・孤独を抱える方の受け皿づくりを進めます。

一般質問

うえだ のりひさ
上田 宗久 議員

質問項目

- 伊賀市の人口減少にどう向き合うのか
- 持続可能な伊賀市づくり



問 2050年の近未来には伊賀市の人口は6万人台になると言われています。将来推計人口に対する市長の見解を伺います

答 人口減少対策は喫緊の課題であると認識しています

労働力や担い手の不足など、将来にわたって様々な面で悪影響が出ますが、そうならないように危機感を持って対策を講じます。

また、市民生活の質の向上にも着目しながら、その時代のオンリーワンを目指します。

問 児童生徒数の減少スピードが一段と加速しています。そのため大胆で迅速な校区再編が必要ではないかと考えます。いかがですか

答 「伊賀市学校みらい構想基本計画」の策定に取り組んでいるところで

児童生徒数の減少数は、令和15年までの10年間で約1,600人の見込みです。現時点では複式学級は全て解消していますが、令和8年度には再び発生します。

スピード感を持って、将来を担う子ども達の学習環境のために、あらゆる想定を勘案しながら検討してまいります。

問 効率化と生産性は大切な観点です

行政の効率とは、市民の要望を調査し、できるだけ安いコストでサービスが提供できる方法を考え、最大の効果を上げることが市長をはじめ職員の責務です。

また行政の生産性とは、行政サービスの質の向上や地域経済の発展なども大切な観点で、つまり付加価値を上げるために、伊賀市の宝物に「人・物・金・情報」を投入することが、リソース（資源を供給する）マネジメントと言えます。

答 ご自身の思いから見た私であろかなと思います

目指すところは同じです。市職員を人財（人は財産の意味）と捉え、市有資産を有効活用し、産業振興条例の浸透など、無駄を省き伊賀市のブランド力を上げます。

人こそは最大の経営資源で、人材育成、適正配置のもと、市民サービスの向上に努めます。

また、様々な様態の市有財産の利活用の基準づくりを議論しますが、民間提案の自由度も担保したいと考えています。

たなか さとる
田中 寛 議員

質問項目

- 伊賀市行政の効率化



さいじょう えりこ
西條エリ子 議員

質問項目

- 能登半島地震から考える伊賀市の防災・減災



問 女性視点の避難所運営は

女性に配慮した伊賀市の災害時の避難所の対策はどのようになっていますか。

答 「三重県避難所運営マニュアル策定指針」に基づき行われます

避難所運営委員に女性メンバーを選出する、避難所にプライバシーに配慮したスペースを設置する、女性の意見が収集できる体制・仕組みを作る、女性が安心して相談できる環境を作るなど具体的に示されています。

地域で策定を進めている避難所運営マニュアルにおいても、女性への配慮を反映できるよう支援しています。

問 避難所にトイレ問題を改善する自動ラップ式トイレ（バリアフリー移動式トイレ）を配備できませんか

答 配備については調査・研究をしていきます

問 地区公民館の耐震状況は把握されていますか。耐震、改修の補助制度を検討できませんか

答 市の所有建築物でないので把握していません

しかし、地区公民館建設費補助金制度で耐震化の増改築の補助があるので、自治会や区に周知していきます。

一般質問

にしだ みちかず
西田 方計 議員

質問項目

- 獣害対策の考え方
- 集落支援員制度
- よりよい奨学金制度にするための観点



問 獣害に関する市の支援は

被害は農作物だけに限りません。生活環境の維持のためにも各地の取組をどう支援していきますか。

答 具体的に支援していきます

県の機関や住民による野生動物の生息状況や移動状況の調査をもとに、狩猟免許の取得支援、追い払いや捕獲用資材等の支援をはじめ、研修会開催など集落ぐるみの取組をこれからも支援していきます。

問 集落調査の意義や集落支援員制度導入に向けた検討状況は

答 集落調査はまちづくりの基本です

本制度の優良事例を研究するなど、伊賀市に適した活用方法を見出せるよう、今後導入の可能性を探ります。

問 新しい奨学金制度をつくるための観点は

答 経済支援をはじめ趣旨を踏まえたよりよい制度をめざします

「伊賀市奨学金」、「伊賀市同和奨学金」の両制度がつけられた経緯や目的、また現在の両奨学金が果たしている役割や効果を分析し、教育の機会均等、社会に貢献する人材育成につながる制度となるよう設計します。

問 有機農業の推進について市長の思いは

伊賀市において有機農業は、歴史があり、生産者（経営体）が東海三県でも一番多く、全国的にみても盛んな地域だと言われています。特に、豊富な人材や技術の蓄積があることが、私たちの財産であり強みであると考えます。推進にあたり市長の思いを伺います。

答 みんなで取り組んでいくことが大切です

有機農業は、農産物が身体に良いこと、土地を健全にすること、経済的な価値があることの3つの意味があると思います。

今後、地域づくりの一つの核になると思いますので、みんなで一つの方角を目指して取り組むことが大事です。

問 店舗を対象とする合併処理浄化槽の交付エリア拡大を

現状の中心市街地だけでなく、市内全域に拡大することについて見解を伺います。

答 段階的に拡大していきます

中心市街地地域で一定の進捗が図られましたら、上野処理区の残りの区域から順次拡大をさせていきたいと考えます。

みやざき えい き
宮崎 栄樹 議員

質問項目

- 伊賀市がめざす有機農業の将来像
- 合併処理浄化槽の普及による環境保全と空き家利活用の促進



なかに かずひこ
中谷 一彦 議員

質問項目

- 公共施設の賃貸借契約
- 文化財の保存



問 旧阿山支所跡地を社会福祉法人あやまユートピアに貸出、賃貸料年額447万4千円、20年間総額8,948万円の契約をしたにもかかわらず

答 賃貸収入はゼロ

建物解体費用実費額を賃貸料から控除する契約になっており、借主から9,207万円の解体費用の実費が確認されたため、差引賃貸収入はありません。

問 公有財産の賃貸料は、土地建物の適正な評価額の4%

公有財産管理規則において算定方法が規定されているにもかかわらず、不動産鑑定

額3億6,882万円の建物を無償とする契約にするのか。

答 資産価値のある建物を無償

賃貸料無償とする根拠は、道の駅あやま及び周辺公共施設敷地におけるエリアマネジメント事業のプロポーザル募集要項で、阿山ふるさとの森公園の事務所、あやま文化センターの建物賃貸料は無償とし公募を行いました。

あやま文化センターは直近の空調など大規模改修費4億8千万円が見込まれ、不動産鑑定評価額を大きく上回っていたためです。



活動報告

出前講座

教育民生常任委員会出前講座

伊賀市PTA連合会と意見交換

令和6年2月8日(木)

「子ども達の未来の伊賀市をどのように考えるか」というテーマで伊賀市PTA連合会と出前講座を開催しました。議員から本年度教育民生常任委員会が行政視察した「石巻市子どもセンターらいつ」の子どもまんなか居場所づくりの実現のための政策の説明をしました。

不登校やひきこもりは様々な要因から生じる問題であり、それぞれの子どものに適した支援が必要です。第三の居場所事業が子ども達にとって貴重な支援となるよう行政、議会、PTAも連携していくことが大切であると確認しました。



母子寡婦福祉会と意見交換

令和6年2月13日(火)

「ひとり親家庭の困りごと」について意見交換をしました。成人式、学童保育、ひとり親家庭への災害に対する支援や対策、低学年からの性の教育など多岐に渡る意見を伺い、教育民生常任委員会として引き続き情報共有をしていくと確認しました。

また、母子寡婦福祉会も会員の生活実態の情報がつかみにくなっているため、行政の必要な情報が届いているか議会としてもチェックに取り組み、母子寡婦福祉会においても全国組織として声を挙げていただくことをお願いしました。



産業建設常任委員会出前講座

伊賀市農業委員会と意見交換

令和6年2月15日(木)

農業の生産力向上と農業経営の合理化を図り、農業者の地位向上に寄与することを目的として設置されている伊賀市農業委員会と、農業・農村等に関する意見交換会を実施しました。

5人の委員からそれぞれ、農業委員会について・長い目で見た農村集落について・今後の稲作について・伊賀市の農政の方向性について・伊賀市の農産物のブランド化についてというテーマでお話しいただき、その後、意見交換となりました。

伊賀市は中山間地で、農業の大型化・集積化ができないこと、地域計画を立てている地域が少ないことなど、伊賀市独自の課題などを共通認識としました。

こうした意見交換の機会を今後も設けていきたいと考えています。

上野商工会議所と意見交換

令和6年2月29日(木)

「伊賀市の適正な土地利用に関する条例」についてをテーマとして、上野商工会議所と懇談会を実施しました。

三重県の製品受注出荷高10兆円のうち、伊賀地域が1兆円少しで、うち8千億円が伊賀市であり、工業都市であるという前提のもと、伊賀市が制定している「伊賀市の適正な土地利用に関する条例」が工業の振興の妨げになっているということで、意見交換を行いました。

伊賀市は、関西圏の企業から魅力があり、企業立地の候補地の一つであるが、開発する用地がなく困っている。伊賀市への企業進出が非常に困難と言えば、知らないうちに伊賀市のポテンシャルを落としていることになるなど、厳しい意見もいただきました。

今後、土地利用に関して、産業建設常任委員会の所管事務調査で取り組んでいきます。





活動報告

研 修 会

伊賀市議会 政策形成・立案能力向上研修会

「議会の政策立案」

1月19日、議会基本条例の規定による議員研修として、早稲田大学マニフェスト研究所^{しょうへい}招聘^{しやうへい}研究員である清水^{しみず} 克士^{かつし} 氏を講師としてお招きし、「議会の政策立案」についてお話をいただきました。

「なぜ議会に政策立案が求められるのか？」それは「行政課題に対する住民意見を、公式の場で聴取し会議録に残すことは議会にしかできない」からで、責任の重さと議会という場での発言の重要性を改めて考える機会となりました。

住民意見を的確に取り入れ理想的な議員間討議を目指し、議会が一つのチームとして政策形成サイクルと評価システムを確立しなければならないことを認識しました。



伊賀市・名張市議会連絡協議会 議員研修会

「地方議会におけるEBPMの推進について ～e-Statを使って我が国経済・社会をみる～」

1月29日、伊賀市と名張市の市議会議員で構成する協議会^{いのかえ}の議員研修会を開催し、両市の議員37人が参加しました。総務省統計高度利用特別研究官である井上^{いのうえ} 卓^{たくし} 氏を講師としてお招きし、根拠に基づいた政策立案：EBPM (Evidence Based Policy Making) について、詳しくお話をいただきました。

e-Statとは、政府統計の総合窓口で、各府省の統計データを一つにまとめた政府統計のポータルサイトです。

インターネット環境があれば誰でも無料で利用できます。

政策立案は、感情や感覚だけではなく、根底には基礎データが必要不可欠であることを改めて認識する研修となりました。



会派の構成が決まりました

政策を中心とした同一理念を共有する2人以上の議員で構成し活動するグループとして会派が存在します。すべての議員が会派に属しているわけではありません。

(令和6年4月17日現在)

会派名 (50音順)	結成の目的	所属議員 ◎は代表者
草の根・無所属フォーラム	多様性、持続可能性、平和を大切にするまちづくりを目指す	◎宮崎栄樹 西田方計 森中秀哲
公明党	結党以来のスローガン「大衆とともに」をモットーに、政治を庶民の手に取り戻し、庶民を守り、庶民の声に寄り添い市政に届ける	◎赤堀久実 近森正利 中谷一彦
自民絆	未来に対する責任ある政策提言を行い、安心・安全・持続可能な伊賀市を目指す	◎市川岳人 西條エリ子
市民の風 いがラボ	市民目線で政策提言するとともに議会改革を推進する	◎山下典子 北山太加視
新政会	コロナ後を見据えた伊賀市の創生	◎北森 徹 川上善幸 (西口和成)
日本共産党伊賀市議団	市民のいのちと暮らしを守る防波堤としての役割を果たし、よりよい伊賀市政実現のため、積極的に提案をおこなう	◎釜井敏行 百上真奈
未来共創街づくり研究会	民生、衛生、商工、農林水産、建設、教育等、すべての政策の横串である街づくりを様々な観点から追及する	◎田中 覚 増田 雄 桃井弘子 上田宗久
会派に所属していない議員		濱瀬達雄 福岡正康 中岡久徳

※議長は会派に属さないことになっているため、() で表示しています。

令和6年6月定例会会議日程（予定）							会議期間24日間
日	月	火	水	木	金	土	
5/26	27	28	29	30	31	6/1	
2	3	4 本会議 (議案上程等)	5	6	7	8	
9	10	11	12	13 本会議 (一般質問)	14 本会議 (一般質問)	15	
16	17 本会議 (一般質問)	18 各常任委員会 (予算・決算を除く)	19 各常任委員会 (予算・決算を除く)	20 各常任委員会 (予算・決算を除く)	21 予算常任委員会	22	
23	24	25	26	27 本会議 (採決等)	28	29	
30							

- ・本会議と予算常任委員会は、午前10時から始まります。
- ・その他の各常任委員会は、本会議初日に決定します。
- ・日程は変更になる場合があります。

ご感想をお寄せください

議会だよりや議会のテレビ放送、YouTube をご覧になったご感想やご意見をお寄せください。

郵送 〒518-8501

伊賀市議会事務局

「議会だより感想」宛

TEL 0595-22-9687

E-mail gikai@city.iga.lg.jp

FAX 0595-24-7901

※伊賀市議会だよりの点字版・録音版を希望される場合は、上記までお問い合わせください。



伊賀市議会ホームページ

伊賀市議会

検索

議会図書室で「政務活動費収支報告書」を公開します

各議員より提出された令和5年度の収支報告書等の写しが閲覧できます。

公開の目的	政務活動費の使途の透明性を確保するとともに、広く市民の皆さんに議員の調査研究活動等を知っていただくため。
閲覧の方法	場所：議会図書室（市役所本庁舎5階） 時間：8時30分～17時15分（土・日・祝日、年末年始を除く。）
閲覧の対象となる文書	①収支報告書 ②行政視察報告書 ③研究研修報告書 ④政務活動費明細書 ⑤領収書又はこれに準ずる書類 ⑥その他添付書類
閲覧の開始時期	令和5年度分は 5月27日（月）から閲覧可能。
閲覧の注意事項等	1. 閲覧書類を閲覧場所の外へ持ち出すことはできません。 2. 閲覧は無料ですが、コピーを希望される場合は、A3以下（白黒）一面につき10円が必要となります。 3. 文書の記載内容に伊賀市情報公開条例に規定する非公開情報が含まれている場合は、その箇所のみマスキング（墨塗り）をしています。
その他	市議会ホームページでは、6月中旬の公開を予定しています。

新しい広報広聴委員が決まりました！

◎…委員長 ○…副委員長

◎桃井 弘子 ○森中 秀哲 釜井 敏行 西田 方計 濱瀬 達雄 福岡 正康 百上 真奈

編集後記

皆様のお陰をもちまして、無事一年間の任務を終えることができましたことに感謝を申し上げます。
今年度は、伊賀市議会の取組として、10月に初めて若年層を対象にタウンミーティングを開催、年が替わり1月には初の中学生議会も開催し、議会としても大いに刺激を受け、大変参考になる事業となりました。
これらの事業の一部は、伊賀市議会だよりに掲載すると共に、紙面中のQRコードを読み取っていただくと詳細に見ることができるようにしています。是非ともご覧いただければ幸いです。
また、市民の方々からいただくご意見は、委員会において情報共有、検討し、可能なところから進化を目指してまいります。
（前広報広聴委員長 川上善幸）

次号は8月1日です

発行：伊賀市議会 編集：伊賀市議会広報広聴委員会

人と地域がつながって イキイキ活動紹介

指定管理者制度を導入した住民自治協議会を紹介するコーナー第4弾。
今回は、博要住民自治協議会取材しました。

Q：博要住民自治協議会の特徴は何ですか。

A：高齢化と人口減少の進む博要地域では「住民相互のつながりと地域の持続的発展を目指したまちづくり」を目標とし、特に移住促進と交流人口の増加に関する事業に重点を置いた活動を行っています。令和5年4月に着任した地域おこし協力隊員の協力により、空き家を活用した移住体験施設をオープンすることができました。また、毎年開催している「はたる祭り」には、県内外からたくさんの方にご来場いただいています。

Q：指定管理者制度を導入されて、感じるメリットとは何ですか。

A：市民センター職員が、休日のイベントや夜の会議など、地域の実情に合わせて勤務することができ、働きやすくなりました。
また、住民自治協議会が市民センター職員と生涯学習支援員を直接雇用することで、地域と職員との距離が近くなり、事業が進めやすくなりました。
制度導入後に市民センターの一室で始めた「ナチュラルカフェきなり」は、各種講座や地域のちょっとした会議の場として重宝されています。



「きなり」が出張した「はなれ+」
～民家の一室で開催～



移住体験施設オープニングイベント
～バルーンリリース～

Q：指定管理者制度のデメリットは何でしょう。

A：職員の雇用や労務管理が増えたことです。

Q：今後の方向性や期待について教えてください。

A：令和5年4月に地域おこし協力隊員を迎え、住民とは違った視点で地域の良さを見直すことができました。
今後は、1月にオープンした移住体験施設を拠点とした移住体験会を行うなど、県内外に博要の魅力を発信し、移住先に選んでいただける地域を目指します。
また、令和6年度から旧博要小学校の木造校舎を活用した収益事業や、農業の担い手育成なども行う予定です。



移住体験施設オープニングイベント
～千本杵で餅つき～